

原 著

腰痛症に対する鍼灸治療

馬 場 道 敬*

I はじめに

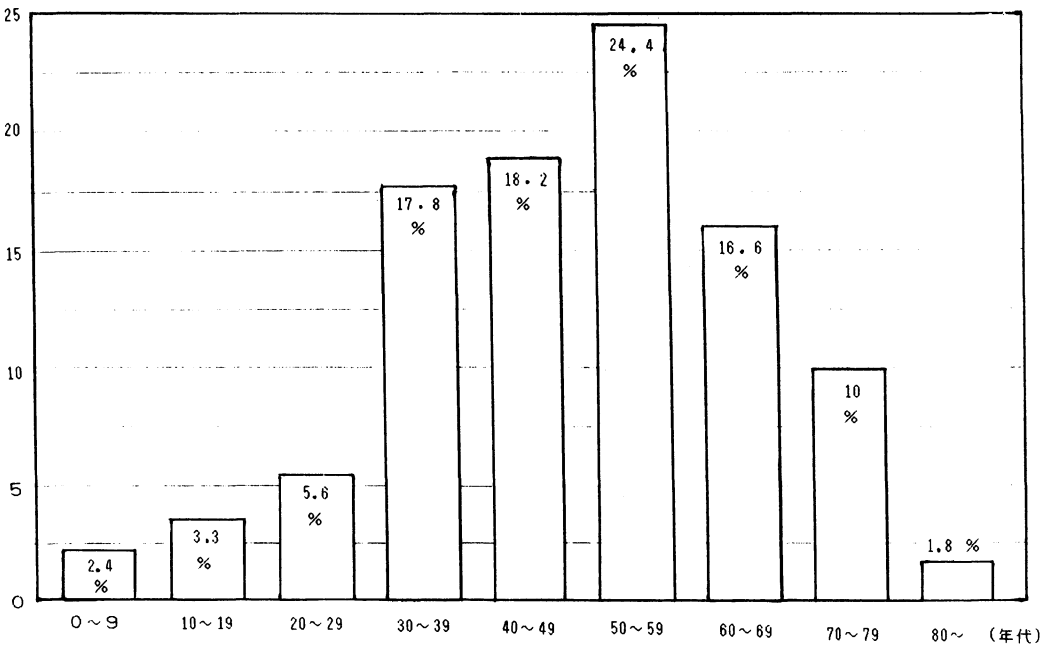
鍼灸治療50年の実績をもつ馬場回生堂鍼灸療院には、自と、それなりに治療体系が出来ている。その治療体系とは、六部定位脈診により、経絡経穴を治療の唯一の場とするところにある。特に腰痛治療に於ては、西洋医学的分類に拘束されず、この経絡経穴を治療の場とすることによって、多くの患者に貢献してきた。この回生堂治療体系に18年間育った私は、今回、昭和61年1月から6月迄のカルテから、病名別、

性別、年代別、経絡経穴別、治療回数等に分類し、腰痛治療に関する比較検討をした。その意味で、これから示す数字は、大学や研究所等の統計ではなく、福岡市の、一個人開業鍼灸院の臨床の実態であることを、予め申し上げる。

II 対象および方法

- 1) 年代別患者数(表1)
- これは、病名にかかわらず、昭和61年1月から6ヵ月間に来院した患者実数878名の年代別の分類である。

表1 年代別による患者数(昭和61年、1月～6月)



*Michiyoshi BABA 福岡地方会
Key Words：六部定位脈診・経絡・経穴・虚実

50歳代が最も多く24.4%，2番目が40歳代で18.2%，3番目が30歳代で17.8%，4番目が60歳代で16.6%，以下70歳代，20歳代，10歳代，10歳未満，

80歳以上と続いている。

2) 年代別治療回数(表2)

患者数では、50歳代、40歳代、30歳代、60歳代、70歳代の順であったが、延べ人数にすると、50歳代が一番多いのは変わらないものの、2番目が60

歳代、それから、70歳代、40歳代と続き、延べの患者数では高齢者が多くなっている。

3) 男女比(表3)

延べ人数で男女比をみると、右の図のように、女性が62.5%で、約2/3を占めるが、患者の実人数

表2 年代別による治療回数(昭和61年、1月～6月)

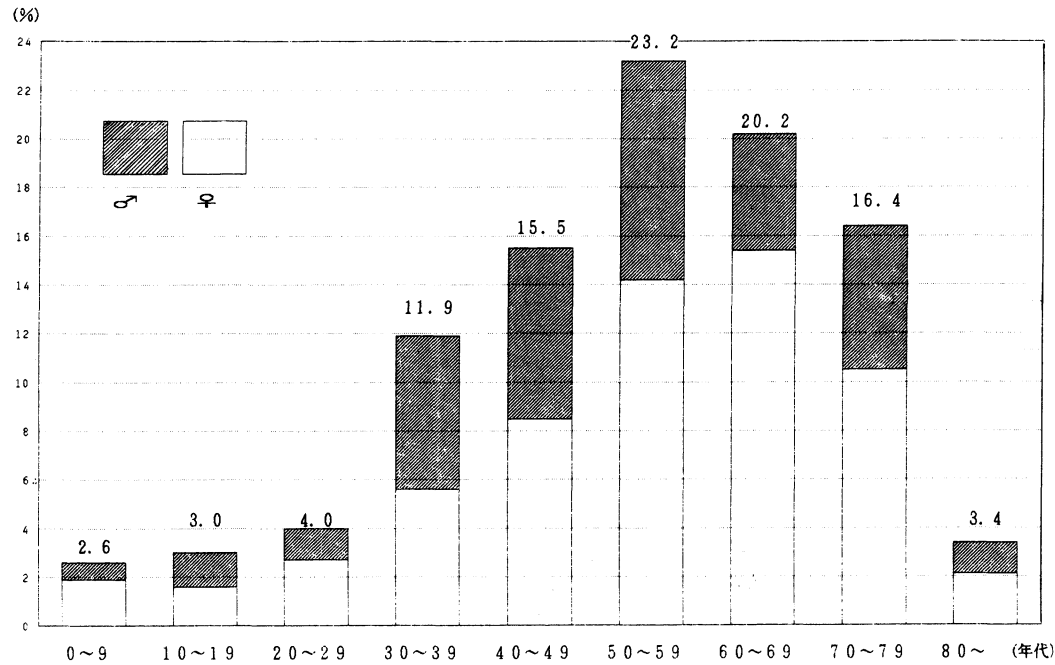
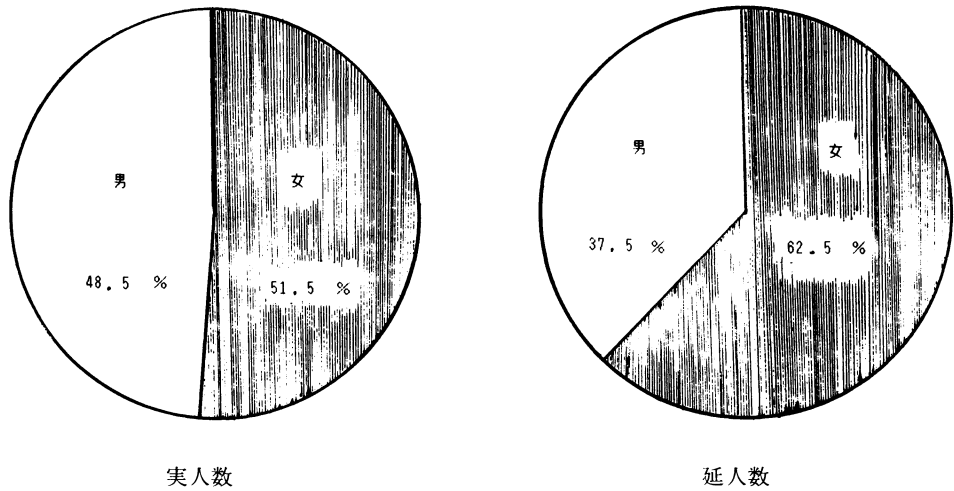


表3 男女比(昭和61年、1月～6月)



で比較すると、左の図のように男女ほぼ同数になっている。

毎日の臨床では、女性の方が圧倒的に多いという印象をもつのだが、これは延べ人数が多いためであって、実際、鍼灸にかかった経験のある人は、男女ほぼ同数だということがこの調査でわかる。

4) 病名別(表4)

患者は、複数の訴えをする場合が多いが、まず

第一に治したいという主訴によって病名別に分類した。

中央の図は、全体の中で腰痛が34%、約1/3で、最も多い主訴である。これを、男女別に分けても男性が38%、女性が30%で、やはり、腰痛が一番多い主訴となっている。

5) 年代別の病名(表5)

各年代別に主訴を分類すると、10歳未満を除い

表4 病名別(昭和61年、1月～6月)

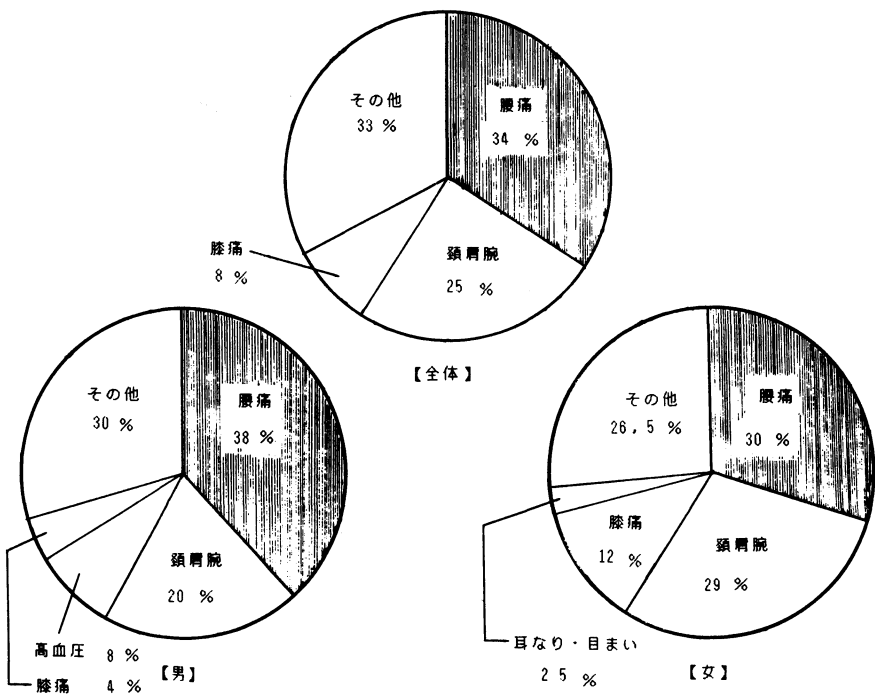


表5 年代別の病名(昭和61年、1月～6月)

年 齢	患者数	1 病 名 (人数)	2 病 名 (人数)	3 病 名 (人数)
0 ～ 9	19	風 邪 (6)	眼 (3)	夜 尿 症 (2)
10～19	27	腰 痛 (6)	風 邪 (3)	頸 肩 腕 (2)
20～29	44	腰 痛 (19)	頸 肩 腕 (11)	膝 痛 (3)
30～39	140	腰 痛 (53)	頸 肩 腕 (41)	耳なり目眩 (6)
40～49	142	頸 肩 腕 (48)	腰 痛 (45)	高 血 圧 (11)
50～59	192	腰 痛 (71)	頸 肩 腕 (51)	膝 痛 (18)
60～69	131	腰 痛 (41)	頸 肩 腕 (29)	膝 痛 (15)
70～79	79	腰 痛 (23)	膝 痛 (16)	頸 肩 腕 (9)
80～	14	腰 痛 (9)	頸 肩 腕 (2)	そ の 他 (3)

て、各年代で腰痛が最も多い主訴となっている。

6) 腰痛患者 1 人当り平均治療回数

腰痛患者に対する 1 人当りの平均治療回数を年代別に分類したものである。

50歳代以上では、平均 9 回から15回、40歳代以下では、平均 5 ～ 6 回となっており、高齢化する程、治療回数が増えている。

全体を平均でみると、一番右側に示しているように、平均8.3回である。

7) 腰痛に対してよく用いる経絡経穴(表 7)

次に、腰痛治療でよく使う経絡を頻度順に並べ

その主な経穴を示した。

一番多いのは、足の少陰腎経で、経穴は復溜、陰谷、腎俞。次は、足の厥陰肝経で、経穴は中封、曲泉、肝俞。3 番目は、足の太陽膀胱経で、経穴は束骨、委中、飛陽。4 番目は、足の少陽胆経で、経穴は陽輔、胆俞。5 番目は、手の陽明大腸経で、経穴は二間、曲池、大腸俞。6 番目は、足の陽明胃経で、経穴は足三里、胃俞である。

一経だけの治療の場合もあるし、二経三経を同時に治療することもある。

一経だけで治る場合は回復も早く、多経に亘る

表6 年代別、腰痛患者 1 人当たりの平均治療回数(昭和61年、1 月～6 月)

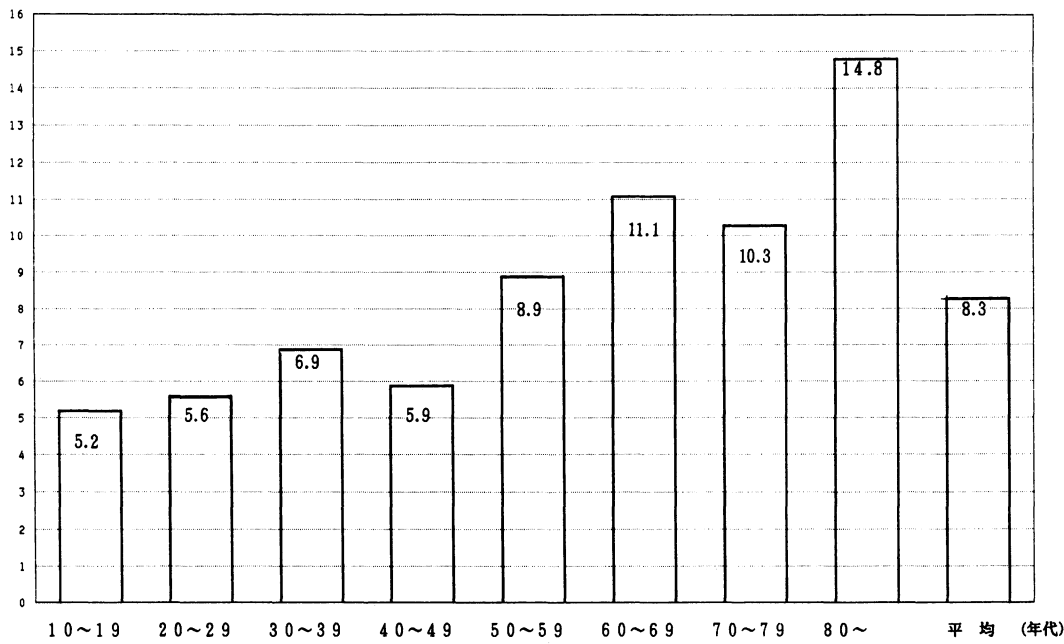


表 7 腰痛に対しよく用いる経絡・経穴

経 絡	経 穴
(1) 足の少陰腎経	復溜 陰谷 腎俞
(2) 足の厥陰肝経	中封 曲泉 肝俞
(3) 足の太陽膀胱経	束骨 委中 飛陽
(4) 足の少陽胆経	陽輔 胆俞
(5) 手の陽明大腸経	二間 曲池 大腸俞
(6) 足の陽明胃経	三里 胃俞

場合は治療回数も増える傾向にある。

Ⅲ 症 例

次に、症例を3例報告する。

。症例1. N. M. ♀ 29歳

初診 昭和62年5月26日

主訴 腰痛

症状 4日前急に腰痛。初診日前日より痛みがひどくなり、特に左腰が痛み、立ちしゃがみ困難、歩行しづらい。

3年前、腰痛の既往歴あり。

脈診 腎経虚、胆経実

毎日3日間の治療でほとんど症状がとれ、7日間5回の治療で主訴は消失した。

治療穴 鍼：曲池、盲兪、陰谷、胆兪、陽輔、委中、復溜、風市

灸：腎兪、風市、復溜

。症例2. K. T. ♂ 62歳

初診 昭和62年5月15日

主訴 腰痛

症状 10年来の腰痛で、いつもは鈍痛がある位だが、時々ひどく痛む。現在は、朝起きる時痛く、腰部が熱く感じる。

脈診 腎経虚、肝経虚、肺経実

1週間4回の治療で、現在の症状、つまり、朝起き上る時の腰痛と腰部の熱感がとれた。

治療穴 鍼：孔最、肺兪(瀉鍼)、盲兪、復溜、陰谷、腎兪、志室、曲泉、肝兪(補鍼)

灸：孔最、復溜、曲泉、腎兪、大腸兪。

。症例3. O. H. ♀ 67歳

初診 昭和61年3月7日

主訴 腰痛、左下肢痛

症状 3年前腰痛がおこり、大体治っていたが、旅行した直後、初診日の10日前、腰が痛くなる。最近は左下肢まで痛む。以前病院で、腰椎が変形してるといわれ、よく牽引をしていた。

脈診 腎経虚、肝経虚、胆経実

治療は、鍼：盲兪、陰谷、肝兪、志室、委中

鍼灸：腎兪、大腸兪、復溜、陽輔

20日間9回の鍼灸治療で、ひどい痛みはおさまって、仕事は出来る状態になった。以来忙がしい

時、無理した時等に、軽い腰部の痛みと左下肢の痛みが出るので、現在まで、一年以上継続して、月7～8回の割で治療しており、完治は未だしていないが、生活・仕事には支障は無い例である。この間、治療は大腸経、肺経、脾経等も使っているが、主体は腎経である。

Ⅳ 考察・結論

今回の馬場回生堂鍼灸療院における患者の分類研究では、腰痛が各年代に亘って主訴の第一位を占めていること、そして、高齢になるにしたがって、治療回数も多くなっていることが判明した。

腰痛は、その訴えの初期において経絡治療を行えば、多くは回復し、余病の続発を防ぐものと思われる(8回前後の治療で症状はほぼ回復している)。しかも、腰痛に対する経絡治療は、多くの鍼灸家にとって、症状の確認と、鍼灸技術を会得すれば、それ程困難なものではない。

したがって、鍼灸治療は、高齢化社会においてますます増加すると思われる腰痛に対して有効な治療法であり、かつ、予防的役割にも貢献できるものと結論する。

(〒810 福岡市中央区地行1-14-35)